



## まると読む・エペソ人への手紙 #1 色鉛筆を持って観察する

まると読む。

2020.3.23

やり方

30分1時間×5

分ける意味。

ヒト  
キコ  
キタ

原書  
を  
読む

- ・紙を印刷する
- ・色えんぴつ・ラインマーカー・ふせん・フリクション
- ・同じことばに色を塗る。・信じる・信仰
- ・かたまりのつながり。・主・彼。
- ・切りたいところ。切りたいところ。訳の問題。
- ・だいたい... 何度も、何度も読む
- ・かたまりの特徴をみつけていく。
- ・段落分けをしようとする
- ・長さのバランス
- ・色をつけておきかえ。
- ・段落に仮の名まえ。
- ・4分割を基本に、段落内の関係性を深める。...たとえば、天と地、内と外
- ・4分割は階層にみえる。愛するところ。
- ・関係性は、他の聖書の文と一致しているか。主の愛と。
- ・どんな材料があるか。5つの段落は何か。よいことと悪いこと。
- ・章節の区別は古い。再考必要。
- ・食べやすいサイズに
- ・分析手法... 文法。
- ・進行方向。キアラ入→4。
- ・解剖... 生態観察
- ・アダムーエバ
- ・新改2017エペソ→デウスを4つ。

まると読む聖書。エペソ人への手紙です。

聖書を読む時に断片的に、この言葉いいなとか読んだり、通読してても、どこか一部の箇所を読んでいくのですね。エペソの手紙は、結婚式の時によく言われます。結構長めですね。「妻たちよ、夫たちよ」という箇所があるのですが、この箇所だけを読むよりは、エペソ全体の中で、「妻たちよ、夫たちよ」という教えを把握したほうが、もっと正しく深く教えられるものだと思いますので、まずまると読んでみようということです。

エペソの手紙は、これでいうと5ページぐらいになっています。いっぺんに食べるとお腹が壊れます。適当な大きさに切っていかなないと口に入りませんので、適切な大きさに区切るということを最初にやっていかなければいけないです。区切る時には、段落と段落を区切るキーワードというのがあります。「ここに愛が多いな、ここに知恵が多いな」と言うような感じですね。ですので、まず分ける前に、全体を自分で把握するためにも、同じ言葉が「ここに出てくるね、あっちにも出てくるね」ということを確かめるというところから始めます。同じ言葉が出てくるという事を、色鉛筆を使って区別する。色鉛筆を使って、同じ言葉に「みこころ、みこころ」というふうに色を塗るという方法があります。色鉛筆を使う人がいます。ラインマーカーとフリクションを使っている人もいます。どれでも好きな方法で構いませんけれど、自分で見て、よく観察するということですね。よく観察してまとまりを見つけていくというのが最初のことです。

例えば、ここ9節に奥義とありますが、「奥義」が実は何回も出てきます。「この奥義は偉大です」と、こんなに離れているところにも出ていますので、全体をあっちに行ったり、こっちに行ったりしながら、慣れていかないといけないということです。大体、一日30分から1時間くらいこれを眺めて、慣れるのに1週間ぐらいかかると思います。30分から1時間を、5日間やってみると、「ここにこんな話があった、あそこにこんな話があった」ということに慣れてくるということが、最初の1週間。次に段落に分けられる。それが次の1週間。そして、その段落の間のつながりを見て、全体のメッセージを把握する。これが3週目ということで、今回は3週間でエペソ人への手紙を読むという方法ですので、色鉛筆もしくはラインマーカーを持って始めてみてください。